

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『本物宿せ！本宿小』
◇ 主体的に探究し、考える力を育てます。(知)
◇ 自分や相手のよさを見つけ、多様性を尊重し合う心を育てます。(徳)
◇ 体を動かすことを楽しみ、健康・体力を高めようとする態度を養います。(体)
◇ 地域の人から学び、わがまちをよりよくしようとする心を育てます。(公)
◇ 夢や目標をもって、持続可能な社会を創造しようとする態度を養います。(関)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

Table with 2 columns: 具体化した資質・能力 and 課題を設定する力
調べたり試したりしてやってみようとする力
他者と関わりながら解決しようとする態度
多様性を認めようとする態度

中期取組目標

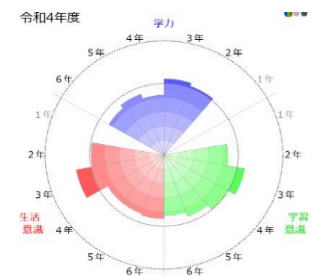
家庭・地域・諸機関と連携・協働したり、情報機器を活用したりして、主体的・対話的で深い学びを目指します。
・本物体験とICT活用を充実させ、主体的に学び、思考力・判断力・表現力を育てます。
・学級活動や縦割り活動、道徳・人権教育を充実させ、多様な他者と自己を尊重する心を育みます。
・健康の大切さを学び、主体的に運動し、生活習慣を整えようとする態度を養います。
・保護者・地域・諸機関・ボランティアとの連携・協働をより充実させ、主体的・対話的に学ぶ態度を養います。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善) and 具体的取組
・学年研で教科・単元についての教材研究、個に応じた指導をさらに充実させる。・研修、公開(オープン)授業などを通して、本宿小の児童の実態に合った単元開発や指導計画の作成に努めるとともに、助言し合いながら指導の改善を図る。・ICT活用、体験を通じた他者との対話の場づくりにより、児童が学習意識を高めていけるようにする

学力向上に関わる本校の状況

(1)児童の実態<学力>
・横浜市学力学習状況調査の調査において、特に4学年以上の高学年において学力・生活意識・学習意識が横浜市平均を下回っている。



(2)これまでの本校の取組状況
令和3、4年度は「各教科・領域のカリキュラム」作成や授業を通しての修正を行ってきた。日々の授業に重点を置き、各学年で身に付けたい資質・能力を明らかにしながら授業改善を進めた。

今年度の目標

児童が「主体的・対話的に学び続けられる」授業づくり
児童の「多様性を尊重する心」を育てる授業づくり

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: 上半期 and 下半期
① 学年研の充実...教材研究と個に応じた指導(児童理解)を充実させる。各学年で目指したい資質・能力の育成を図るとともに各学年の取り組みを学校全体で共有する機会を設ける。
② 研修の充実...自ら問いを見つけ進んで課題解決を図る楽しさを味わい学習意識が高められる授業づくりを目指して、研修を計画する。教職員各自が「Myテーマ」を設定して公開授業を行い、教職員の学び合いを高める。
③ 本物体験(身に付けた能力を発揮する場面、魅力ある人材、地域材との関わりなど)...意図的に他者との対話の場を設定し、聞いたり対話したりすることを通して、主体的に課題解決を図ったり学習意識を高めたりすることができるようにする。
④ 自己学習力を高めるICTの活用...自宅での家庭学習と授業とのつながり(端末持ち帰り試行)、学習困難な児童への手立てについて検討していく。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (人権教育) and 具体的取組
「居心地の良い学校づくり」を目指す。
①横浜プログラムを定期的に取り入れ、安心できる人間関係づくりや自己肯定感を高めることにつなげる。
②人権教育の充実をはかる。③SOSが出せているかなど、児童の様子を丁寧にとらえる。

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童の実態
○学校のきまりを守って生活しようという気持ちをもつ児童は多い。
○校内や、登下校時の挨拶や地域の方への挨拶には消極的である。
○自己有用感の低い児童、傷つきやすい児童が各クラスにいる。(YPアセスメントより)
○異学年交流や集団登校班で異学年との交流があり、高学年が育つ仕組みがある。

(2)これまでの学校の取組状況
○学校生活についてのアンケートを年2回行い、学級や児童の多面的な理解につなげた。
○きいて、きいて月間を設定し、アンケートで気になる児童の話聞き、個々の児童をみとれるようにした。
○人権月間を設け、各学年に応じた人権に関わる授業を行い、伝え合って振り返る機会にした。

今年度の目標

人とのかかわりを重視し、豊かな人間関係を築くとともに、一人ひとりの児童の自己有用感を育み、自他を大切にすることを育てます。

目標を実現するための具体的行動プラン

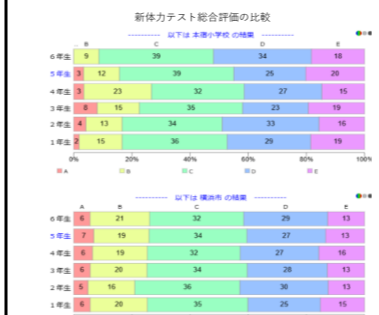
Table with 2 columns: 上半期 and 下半期
○子どもの社会的スキル横浜プログラムを活用し、人とのかかわりを増やし、自己有用感を育てたり、自他を尊重する態度を育てたりする。
○道徳科の授業の充実。児童の実態に合わせた課題を設定し、適した教材を作成して学年で共有しながら、自分事として考えられる授業を目指す。
○異学年交流の充実。本宿小ラリー等の行事や縦割り活動を通して、高学年が自覚と責任をもって行動できる実践力や主体性、異学年との協力や思いやりの心を育てる。教室をペア学年が近くなるように配置し、日常的な交流を目指す。
○特別支援教育の充実。全職員で支援の必要な子どもたちを支える体制をつくる。また、外部講師による講演会や研修会を通して児童理解、特別支援教育への職員の理解を深める。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育) and 具体的取組
①学習や生活習慣の改善のため、家庭と連携し、学校保健委員会での取組を充実させる。②進んで運動を楽しむ子の育成のため、本宿体操等の活動に継続して取り組む。

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
○横浜市体力・運動能力調査では、「朝ごはんを毎日食べている」児童の割合は高いが、食べてこない児童も一定数いる。○1日のパソコン(タブレット型を含む)・携帯電話・ゲーム機の視聴時間では、学年が上がるにつれて視聴時間は長くなっている。特に高学年では1日に3時間以上見ている児童数が30%程度いる。○「睡眠時間」が6時間以上とっている児童が80%以上だが、中学年より上の学年から、6時間未満になっている児童が一定数いる。



(2)これまでの学校の取組状況
○体育委員会が中心となって、本宿体操に取り組んできた。○子どもたちが主体となり、体力・健康に関する興味をもちながら進めるスマイルスポーツフェスティバルをつくり上げてきた。○パワーアップ月間では、体育委員会の児童を中心に活動を進め、長距離走や長縄などの運動に取り組んできた。○栄養職員、養護教諭と連携した授業を実践してきた。

今年度の目標

○自分の生活や身体のことについて気づいたり、見直したりする活動を取り入れていく。
○体を動かすことの心地よさや、自分自身の身体への気づきを促す。

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: 上半期 and 下半期
○体を動かすことの心地よさや、自分自身への身体への気づきを日々の学習の中でもできるように、学習カードなどを使いふり返る機会をなるべく多く設ける。
○体を動かす機会を増やすため、パワーアップ月間の活動を体育委員会を中心に企画・運営していく。
○横浜市体力・運動能力調査や健康診断の結果を児童自身がふり返る時間を設定し、基本的な生活習慣を見直すきっかけをもてるようにする。
○体力テストに取り組み、結果を地域や保護者に知らせる。(実際は後期)
○朝モジュールの時間を利用して、週1回、高学年と低学年に分けて体操を行い基礎体力を養うとともにスポフェスに向けての体力づくりに取り組む。
○学校保健委員会を通して、けがをしない体づくりに取り組む。